

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

第4回検討会（陸域動植物）

◎足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 第4回検討会（陸域動植物）が平成20年11月11日に福井県国際交流会館にて開催されました。

足羽川ダム工事事務所長挨拶



足羽川ダム工事事務所 川崎将生所長の挨拶

出席委員



第4回検討会では、動植物の各分類群を専門とする4人の委員により、陸域の動物・植物についてご検討いただきました。

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 検討会 委員名簿

担当分野	氏 名		現 職 等
哺乳類	西垣 正男	にしがき まさお	福井県自然保護課 企画主査
鳥類 (鳥類部会長)	林 武雄	はやし たけお	日本鳥類保護連盟 理事
爬虫類 両生類 陸産貝類	長谷川 巍	はせがわ いわお	福井県両生爬虫類研究会 会長
陸上昆虫類	下野谷 豊一	しののや とよかず	(財)日本鱗翅学会会員
植物	渡辺 定路	わたなべ さだみち	元福井市自然史博物館館長

※長谷川委員はご欠席。

第4回検討会での審議骨子

I. 事務局からの報告

事務局より以下の事項が報告されました。

- ・工事計画の概要について
- ・動物（陸域）についての予測、保全措置の検討結果
- ・植物（陸域）についての予測、保全措置の検討結果
- ・今後の予定

II. 委員からの主な意見

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

指摘事項	意見内容	事務局回答
植物（陸域）	保全措置で移植先としている湿地環境（水田）については、管理者がいなくなると環境が変化する。今後湿地環境を維持していくのも難しい面があるので注意すること。	現在ある堰を残すことで水量を確保することを考えている。維持管理にあたっても十分注意して行う。
動物（陸域）	モモンガは、樹高の2倍程度の距離まで滑空による移動を行うので、現在の河川及び河川沿いの道路周辺においても移動が行われていると考えられる。	ご意見を踏まえて、予測結果の記載内容を一部修正する。
	フクイアナバチの繁殖環境は人工的な造成地であるため、改変区域周辺にはむしろ繁殖環境が増加すると考えられる。	ご意見を踏まえて、予測結果の記載内容を一部修正する。